

令和5年度（2023年度）第1回柏崎市健康づくり推進会議 委員からの御意見

開催日時 令和5年（2023年）8月30日（水）13:30～15:00

会場 柏崎市健康管理センター3階 集団指導室

1 令和5年度（2023年度）重点活動の推進について

(1) 青壮年期への働きかけの強化について

【働く人、企業への働きかけ】

- ・知識や技術があっても、健康でないことでその人の能力が発揮できないということがあ
る。例えば、体重が100kgを超えると梯子や脚立に上がれない、慢性疾患だと海外
赴任ができないなど、能力を発揮する機会が失われてしまう。肥満予防対策などは、な
ぜこういうことをするのかという説明を盛り込んでもらいたい。
- ・健康保険組合でウォーキングキャンペーンをしたが、関東にある事業所に比べ、柏崎
の人はなかなか参加してくれない。ナッジを活用した運動の取組や柏崎にいてだけで
体力がつく、健康でいられる取組をみんなで考えられることも良いかと思う。
- ・企業訪問を行っているのが、かしわざき健康サポートカンパニー、健康経営優良法人認
定企業などへの企業訪問という形で、もともと健康に関する関心が高い企業というこ
とになる。これ以外の企業への働きかけも非常に大事なことだと思う。対象を拡大して、
市全体で取組を推進していけるように、中長期的に検討してもらいたい。

【保護者世代への働きかけ】

- ・幼稚園、保育園を通して、保護者世代へ働きかけることは、良い取組だと思う。

【健康アプリの活用】

- ・健康アプリの紹介をしてもらい、職場で紹介した。使いやすいアプリで、それぞれの年
齢や体力に応じて目標を決めて取り組むことができている。もっと、このアプリを企業
などに宣伝していったらどうか。
- ・アプリにはいろいろな機能があり、スマートフォンの操作に不慣れな人は集まった場で
利用方法をお伝えすることも有効ではないか。

【地域への健康情報の発信】

- ・コミュニティセンターで健康アプリの記事を掲載した。市から今月はこの健康の記事を
掲載してほしいといった形で、記事の提供や掲載依頼があるとよい。コミュニティセン
ターの担当者が作成しなくても活用できるので、是非検討してほしい。

【子どもの肥満】

- ・会議の中でも気になっている課題として、肥満がある。3歳以上児の肥満の状況が県内
ワースト6位というのは個人的にもショッキングなデータだと感じた。現在、未就学児
への取組を運動施設でも始めている。食育や生活環境も重要。そういった啓発活動をス
タート地点として、運動施設なども利用してもらいたい。また、運動施設としてもそう
いった機会を作らなくてはいけないと感じている。

【骨折予防、骨密度測定】

- ・コツコツ貯筋体操を辞めていく方達の原因を聞くと、がんになったという方よりも、特に女性に多いが、圧迫骨折という理由が多く聞かれる。
- ・骨折は、生活の質が低下して、ひいては認知症にもつながる問題である。カルシウムの多い食品を摂るなど、気を付けようと思っても自分の状態が分からない。骨折をする前に、身近で骨密度を測定できる機会があると良い。
- ・市内 A 病院を中心に、市内のクリニックを含めて一度骨折した人が再骨折しないよう、二次骨折予防のための取組が行われている。診療での取組と身近で骨密度を測定できる機会と両方必要であり、検討してもらいたい。
- ・骨粗しょう症検診など骨密度を測定できる機会を周知していくことも必要である。

(2) 生活習慣によるがんの予防と早期発見の取組について

【がん検診未受診者、精密検査対象者への受診勧奨】

- ・精密検査未受診の人へ連絡をして、検査をおすすめしても「仕事が忙しい」などといった理由で受けない人も多いのではないかと思う。仕事が忙しくて行けないということだと、なかなか本人に働きかけても難しい。そうであれば会社などからの働きかけが有効なのではないか。
- ・検診未受診者に対して勧奨のハガキを出しても、多くの人が未受診ということであれば、なぜ受けないのかという理由も把握していかななくてはいけないと思う。ただ、忘れていた人のためのお知らせという形だと取組として疑問が残る。

【企業・事業所におけるがん検診】

- ・事業所にとっては、まず、市のがん検診を受けられるという認識がない、まずは受けられるといった情報発信があると良い。
- ・事業所はがん検診の法的根拠がないので、福利厚生となると、やはり事業所の考え方ということになってくると思う。難しいかもしれないが、積極的に取り組んでいる企業に対して、何らかの支援も検討してもらいたい。

【がん検診受診状況の把握】

- ・市町村は、国保以外の人過去のがん検診の受診状況などは追えない。受診申し込みも任意であれば、過去どこで受けているかも把握や管理は難しい。できれば申込の時点で、「昨年検診を受けましたか」「治療中ですか」といった記載欄があれば、現状の把握ができて受診勧奨にもつなげられる。申込書の内容を工夫してもらいたい。